

キリストのからだの実際のために復活の中で生活する

聖書：Ⅱコリント 1:8-9. ローマ 8:28-29. ピリピ 3:10-11.

Ⅱコリント 4:16. Iコリント 15:58

I. わたしたちは復活の中で生活するために、キリストの復活に関して明らかにされた真理を見なければなりません：

- A. 人性の中のキリストは、復活の中で神によって生まれて神の長子となり、からだのかしらとなりました——使徒 13:33. ローマ 8:29 後半。
- B. キリストのすべての信者は、父なる神によって、キリストの復活を通して再生されました。それは、彼の複製である彼のからだとしての召会を生み出すためです——Iペテロ 1:3. ヨハネ 12:24. Iコリント 10:17。
- C. 最後のアダムとしてのキリストは、命を与える霊と成りました——15:45 後半。
- D. 主の復活のこれらの主要な項目（神の長子、神の多くの子たち、命を与える霊）がなければ、召会はなく、キリストのからだもなく、神のエコノミーもありません——参照、コロサイ 1:18. Iコリント 12:12. エペソ 4:4。

II. 芽を出した杖が表徴しているのは、復活した方であるキリストがわたしたちの命、わたしたちの生活、わたしたちの中の復活の命であるべきであるということと、この命が芽を出し、つぼみを付け、花を咲かせ、実を結んで熟すべきであるということ——民 17:8：

- A. 民数記第 16 章に記載されているように、イスラエルの子たちが反逆した後、神は十二人の族長に命じて、イスラエルの十二部族にしたがって十二本の杖を取らせて、それらを集会の天幕の中にある証しの板の前に置かせました（17:4）。それから神は、「わたしが選ぶ人の杖は芽を出す」と言われました——5 節。
- B. 十二本の杖はすべて、葉がなく、根がなく、枯れて、死んでいました。芽を出したものは、神によって選ばれたものでした。ここでわたしたちが見るのは、復活が神の選びの根拠であるということと、奉仕の根拠がわたしたちの天然の命の外にあるということです。こういうわけで、芽を出した杖が表徴するのは、わたしたちが経験する復活のキリストであり、彼によってわたしたちは神によって受け入れられて、神が与えてくださった務めの中で権威を持ちます。
- C. あらゆる奉仕の原則は、芽を出した杖にあります。神は十一本の杖すべてを族長たちに戻しましたが、アロンの杖は契約の箱の中に保存して、永遠の記念としました。これが意味するのは、復活が、神に対するわたしたちの奉仕の永遠の原則であるということです——9-10 節：
  - 1. 復活が意味するのは、あらゆる事が神からであって、わたしたちからではないということと、神だけができるのであって、わたしたちにはできないということです——ピリピ 3:10-11。
  - 2. わたしたちができる事は、天然の領域に属します。わたしたちができない事は、復活の領域に属します。人は、自分自身の終わりへともたらされなければなりません。そうしてはじめて、自分が全く役に立たないことを知ります——マタイ

19:26. マルコ 10:27. ルカ 18:27。

3. もし人が、自分自身にはできないことを認識したことがなければ、神にはできることを決して経験できません。復活が意味するのは、わたしたちにはできないということと、神があらゆる事を行なった方であるということ—参照、II コリント 1:8-9. 4:7。

### III. わたしたちはキリストのからだの実際の中にいるために、完全にキリストの復活の命の中にいる必要があります：

- A. 召会は、完全にキリストの要素からであり、完全に復活の中にあり、完全に天上にあります— I ペテロ 1:3. エペソ 2:6. 参照、創 2:21-24。
- B. キリストのからだである召会を予表する金の燭台は、復活の命であるキリストが成長し、枝を出し、つぼみを付け、花を咲かせて光を輝かすことを描写しています—出 25:31-40. 民 17:8. 啓 1:11-12。
- C. わたしたちは、自分の天然の命によってではなく、わたしたちの中の神聖な命によって生きるとき、復活の中にいます。この結果がキリストのからだです—ピリピ 3:10-11：
  1. わたしたちはみな、主によって弟子とされて、神聖で奥義的な人となり、自分の天然の命を否むことによって神聖な命を生きる必要があります—参照、ヨハネ 3:8。
  2. 天然の命において行なわれる事は何であれ、たとえそれが聖書的に行なわれているとしても、キリストのからだの実際ではありません— I コリント 3:12。

### IV. わたしたちは復活の中で生活するために、復活の神を知り、経験し、得なければなりません— II コリント 1:8-9：

- A. 神は十字架を通して働いており、わたしたちを終結させ、わたしたちを終わりへともたします。それは、わたしたちがもはや自分自身に信頼するのではなく、復活の神に信頼するためです— 9 節。
- B. 生ける神は人のために多くの事を行なうことができますが、生ける神の命と性質は人の中へと造り込まれません。復活の神が働くとき、彼の命と性質は人の中へと造り込まれます— 4:16：
  1. 神が働いているのは、外面の行為によって彼の力を知らせるためではなく、ご自身を人の中へと分け与え、造り込むためです—ガラテヤ 4:19。
  2. 神は環境を用いて、ご自身の命と性質をわたしたちの中へと造り込みます— II コリント 4:7-12. I テサロニケ 3:3。
  3. わたしたちは復活の中で生活して、復活の神で構成されるために、「すべて」を通して、神の長子であるキリストのかたちに同形化されなければなりません—ローマ 8:28-29. ヘブル 12:10. エレミヤ 48:11。
  4. この宇宙における苦難のおもな目的は、特に神の子たちに関しては、苦難を通して神の性質が人の性質の中へと造り込まれて、人が最も満ち満ちた程度にまで神を得ることです— II コリント 4:16。
  5. わたしたちは患難を経過するとき、日ごとにわたしたちの中で継続的な更新が起こる必要があります。それによって、神はご自身の心の願いを達成して、わたし

たちを新エルサレムとすることができます——エゼキエル 36:26. II コリント 5:17. 啓 21:2。

C. わたしたちは復活の中で生活するために、復活の命の新鮮な供給で養われることによって、日ごとに新しくされなければなりません——II コリント 4:16 :

1. 真のクリスチャン生活は、朝と夕に、日ごとに、復活の神がわたしたちの中へと加えられることです——コロサイ 2:19. ローマ 8:10, 6, 11。

2. わたしたちは復活の中にある神聖な命の新しくする能力を受けるために、神と接触し、自分自身を彼に開き、彼にわたしたちの中へと入ってきていただき、日ごとにわたしたちの中へと新しく増し加わっていただく必要があります——ピリピ 2:13. 3:10-11 :

a. わたしたちは、十字架、聖霊、わたしたちのミングリングされた霊、神の言葉によって新しくされます——II コリント 4:10. テトス 3:5. エペソ 4:23. 5:26。

b. わたしたちは毎朝、復興される必要があります——マタイ 13:43. 箴 4:18。

c. わたしたちは、他の人たちを赦すことと、赦しを求めることによって、新しくされる原則の中で主の食卓に来るべきです——マタイ 26:29. 5:23-24. 18:21-22, 35。

3. 十字架の殺しは、復活の命が現されるという結果になります。この日ごとの殺しは、復活の中で神聖な命を解き放つためです——II コリント 4:10-12。

D. わたしたちの天然の力と能力は、主に仕えるために、十字架によって対処されて、復活の中で有用になる必要があります——ピリピ 3:3 :

1. モーセは神によって四十年間、わきに置かれた後、神の導きにしがたって神に仕えることと神に信頼することを学びました——出 2:14-15. 使徒 7:22-36. ヘブル 11:28。

2. ペテロは徹底的に失敗した後、信仰によって、またへりくだりをもって兄弟たちに仕えることを学びました——ルカ 22:32-33. ヨハネ 18:15-18, 25-27. マタイ 26:69-75. I ペテロ 5:5-6。

3. 七倍に強化された命を与える霊は、復活の中にあるものだけを尊重します。もしわたしたちが行なういかなる働きも、復活の中になければ、命を与える霊は決してそれを尊重しないでしょう——I コリント 15:58. 3:12。